



よくまなび よくあそび
～ 人生を拓く力の育成 ～
まなび いっぱい
やさしさ いっぱい
げんき いっぱい

究極の幸せ

「日本理化学工業」という日本最大のチョーク生産を誇る会社があります。この会社では、全従業員90人中63人の知的障がい者（内26人が重度の障がい者）が働いています。（2022年2月現在）

知的障がい者の雇用は、昭和35年にさかのぼります。養護学校（現在の特別支援学校）の先生の依頼で、知的障がいのある少女2人を職場体験実習として受け入れました。実習期間を無事に終えますが、社員たちから「自分たちが面倒を見るから、この子たちを雇ってほしい。辞めさせないでほしい」と懇願され、その2人を正社員として雇用しました。それをきっかけに、やがて毎年、知的障がい者を雇い入れるようになっていきます。その背景にあったのは、ある禅寺の住職から聞いた「人間の究極の幸せ」についての言葉でした。住職が語った「人間の究極の幸せ」それは、次の4つです。

- 1つ目は「人に愛されること」
- 2つ目は「人にほめられること」
- 3つ目は「人の役に立つこと」
- 4つ目は「人に必要とされること」



障がいをもつ人たちも、働いて人の役に立つことこそ幸福な生き方だという気付きは、日本理化学工業の壮大な挑戦のスタートとなりました。

ほとんどが手作業のチョークの製造工程ですが、彼ら彼女らの今ある理解力で仕事ができるよう作業環境を整えてあげると、役に立っている幸せを感じながら一生懸命に仕事をします。実際、その特別な集中力と職人技は、会社内で役立ち、必要とされています。

「人間の究極の幸せ」は、学校生活でも同じです。子どもたちが担う活動には、学級の係活動や、掃除や給食などの当番活動。学年が上がると委員会活動もあります。ボランティア活動もそうです。それらの活動を通して、皆に感謝され、友だちの役に立っている、必要とされていると実感したとき、その嬉しさはいかばかりのものでしょうか。

学校では、「いつも〇〇してくれてありがとう」「あなたがいないと困ってしまう」「君がいてくれて助かるよ」と、感謝の気持ちを伝えたり、ねぎらうことを心がけています。



ご家庭においても色々な役割があると思います。何かお手伝いをしてくれたら、是非「ありがとう」とお礼を言ってあげてください。できれば「ありがとう」の後に「〇〇くんがいてよかった」「〇〇ちゃんがいて助かったよ」などと付け加えてあげると、より「役に立って喜んでもらえた」を実感することができると思います。

子どもたちは、愛されたいし、ほめられたいし、役に立ちたいし、必要とされたいと思っています。

学校経営の方針について（２）

12月の保護者アンケートでご意見をいただいたうえで、「令和5年度 学校経営方針」を策定させていただきます。

学校経営の重点



<まなびいっぱい> ～ 確かな学力の育成

○ 基本を大切にする

小学校でのつまずきは、卒業後まで影響します。日々の授業を大切にし、基礎基本の定着を図ります。定着させるためには、反復練習が必要なものもあります。本校では、低・中・高学年別に「家庭学習の手引き」を配付し、ご家庭との共通理解を図っています。

○ 「体験」を重視する

学習は机上だけではできません。人との交流や自然体験など、本物との出会いが実感を伴った理解になり、思考を深めます。表現力、想像力、創造力を高めます。

○ ICTを効果的に活用する

タブレット端末やICT機器を日常的、効果的に活用します。そのためにも「教員の活用スキルの向上」を図ります。また、情報モラル・ネットリテラシー教育にも取り組みます。

<やさしさいっぱい> ～ 一人一人を大切にし、豊かな心を育む

○ あいさつ、マナーを徹底する

あいさつは人としての基本です。あいさつは毎日の積み重ねでしか身につけません。マナーも大切です。周りへの気遣いや感謝の気持ちを、言葉や行動で表すことができる子どもに成長してほしいと思っています。あいさつやマナーの指導は学校でも行いますが、ご家庭の役割が大きいと思っています。学校とご家庭との連携が求められます。

○ 人にやさしく自分にきびしく

「人権」は「安全」とともに、すべてに優先します。互いの良さを認め合えるような学級づくりに努め、やさしさや人を思いやる心を育みます。そのために、感動的な体験学習を取り入れ、道徳の授業の充実を図ります。一方、自分に対するきびしさは、困難なことに挑戦し克服する経験の中で育まれます。子どもが挑戦し、辛いことでも笑顔で乗り越えることができるよう、達成感を味わえるような機会をたくさんつくっていきます。

○ いじめは、いじめる側が100%悪い

いじめや暴力を正当化する理由はありません。いじめを許さない学級経営を行い、防止、早期発見、解決には組織で対応します。

<げんきいっぱい> ～ 健やかな体の育成

○ 体を鍛える

学力を身につけるためには、集中力、持続力、忍耐力が必要になってきます。これらの力は体力と無関係ではありません。運動量の確保や様々な運動経験をさせるため、体育の授業の充実を図ります。また、外遊びを推奨し、長縄大会などの行事を推進することで、子どもたちが進んで運動に取り組む機会をつくれます。

○ 基本的な生活習慣と病気やけがの予防

安全教育や訓練を通して、「自分の身体は自分で守る」力の育成に力を入れます。また、健康の基本は「早寝早起き朝ごはん」です。ご家庭と連携しながら、食育を含め、基本的な生活習慣を身につけさせるよう取り組みます。